

映画の王国

A Kingdom of Cinema.

エルンスト・ルビッチ監督

「天使」

Angel

主演

マレーネ・ディートリッヒ

ハーバート・マーシャル/メルヴン・タグラス

「極楽特急」

Trouble in Paradise

主演

ハーバート・マーシャル/ミリアム・ホフキンス/ケイ・フランシス

「生活の設計」

Design for Living

主演

ゲーリー・クーハー/フレドリック・マーチ/ミリアム・ホフキンス

アメリカ映画・パラマウント作品

配給:プレノン・アッシュ

ルビッチ

生誕 100 年祭

プレノン・アッシュ ベストコレクション4

いま、ルビッチという名のゲームが始まる

蓮實重彦

ことはあのルビッチにかかわる問題なのだから、何が起ころうともみだりに声を荒立てたりしてはならぬ。かりに驚天動地、茫然自失、抱腹絶倒といった事態がこの上のない自然さであなたを揺り動かそうとも、エルスト・ルビッチを前にして、大声を発することだけは慎まねばなるまい。ルビッチとともに快樂の高まりがまざまざと予感される場合であろうと、せめてエクスタシーの決定的な到来だけは回避すること。いま、われわれに課されているルビッチという名のゲームの規則は、そのことにつきている。大袈裟に振る舞おうとする者は、悪意の有無にかかわらず、この遊戯には参加できない。それがルビッチの慎ましい残酷さというものだ。とはいえ、この規則に忠実に振る舞うことを間違っても義務だと勘違いしてはなるまい。それは、生誕百年目にルビッチを発見するものだけに許された悦ばしい特権にほかならず、いま、その特権をそしめ顔で行使すべき願ってもない好機が訪れようとしている。思わず歓声をあげたくなる心を抑えながら、そのゲームに加わろうではないか。

ついに『極楽特急』が見られたことに歓喜しながら、不肖の弟子ワルダーの野暮さ加減を改めて認識することは、もちろん禁じられてはいない。戦時下のシンガポールでの極秘の試写で、小津安二郎を狂喜させたという『天使』を見ながら、ディートリッヒが持ちえた最大のパートナーが、あの瀟洒なハーバート・マーシャルに間違いないと改めて確信する権利も、あらゆる者に許されている。『生

活の設計』のゲーリー・クーバーのそぶりから、接吻が性交にもまして甘美な快樂をもたらすはずだと錯覚する権利も、平等に保証されている。「ルビッチは映画の王者」だというフランソワ・トリュフォーの言葉が、いざさかも誇張でないばかりか、むしろあまりに誇張を欠いている事実をいざさかを表明することさえが、いまや可能になったのである。にもかかわらず、そうした不測の事態の到来を大声で触れて回ってはならない。遊戯の規則は、あくまでも慎みにあるからだ。ふくみ笑いとともにルビッチ…と低くつぶやくことぐらいいは、もちろん禁じられてはいない。その名をさりげなく会話にまぎれこませることなども、許されていよう。たやすくはアングロ・サクソン化されがたいそのドイツ系の名前であろうと、ベルリンからハリウッドへとかけつがれる豊かなフィルモグラフィーを活気づける作品の題名であろうと、スクリーンを華麗に横切る最盛期のスターたちの名前であろうと、われわれに許されているのは、それらのどれかひとつを、声を荒立てずにそっつつぶやくことだけなのだ。

そのとき、あたりに拡がる無数の低いつぶやきとともに、ルビッチという名のスリリングなゲームが始まる。それに加わろうとする者は、間違ってもこのゲームの発明者ルビッチの名前を大声で叫んだりしないことだ。くりかえすが、ルビッチは大袈裟であることをどこまでも回避する。事実、慎ましさが大袈裟であることを凌駕する瞬間こそが、この遊戯の醍醐味なのである。

天使 Angel

1937年／アメリカ映画／90分
主演／マレーネ・ディートリッヒ
ハーバート・マーシャル
メルヴィン・ダグラス



イギリスの外交官パーカー卿(ハーバート・マーシャル)の夫人マリア(マレーネ・ディートリッヒ)は、夫の出張中バリのサロンを訪れ、アンソニー(メルヴィン・ダグラス)と出会う。アンソニーは“天使のような”彼女に名前を聞くが、マリアは名乗らぬまま姿を消してしまふ。そして一夜の恋人たちに、思わぬ再会の日が訪れる。
“男二人に愛されることで女性を輝かせる”ルビッチ映画の極めつけと絶賛された1本。

極楽特急 Trouble in Paradise

1932年／アメリカ映画／83分
主演／ハーバート・マーシャル
ミリアム・ホプキンス
ケイ・フランシス



ルビッチの最高傑作と呼ぶ人も多い、オシャレでユーモラスな犯罪映画。
ヴェニスで恋を囁いているかに見えるリリ(ミリアム・ホプキンス)とガストン(ハーバート・マーシャル)は、実は泥棒だった。二人は互いの腕前を知って意気投合する。バリの大金持ちの若き未亡人マリアンヌ(ケイ・フランシス)に取り入ったガストンとリリだったが、やがてマリアンヌはガストンに本当の愛を覚えてしまう。

生活の設計 Design for Living

1933年／アメリカ映画／90分
主演／ゲーリー・クーバー
フレドリック・マーチ
ミリアム・ホプキンス



アメリカ人の画家ジョージ(ゲーリー・クーバー)と劇作家トム(フレドリック・マーチ)はバりに留学中。ある日、魅力的なアメリカ女性ギルダ(ミリアム・ホプキンス)と知り合い、たちまち恋の虜となる。ギルダも同じような好意を抱き、アトリエに同居するが、ある日、ジョージが禁を破って、ギルダを誘惑する。
二人の男を同時に愛する女という、最もルビッチらしい恋愛映画で、トリュフォーやゴダールに大きな影響を与えた傑作。

すべて35ミリ、モノクロ、スタンダード、ニュープリント 配給：プレノン・アッシュ

大入御礼アンコール・レイトショー決定! 2/12(金)~3/5(金) 連日夜9:20より上映(昼の回と入れ替え)

●「生きるべきか死ぬべきか」2/12(金)~15(月)終映10:59 ●「天国は待ってくれる」2/16(火)~19(金)終映11:12
●「天使」2/20(土)~26(金)終映10:50 ●「極楽特急」2/27(土)~3/5(金)終映10:43

激賞上映中●「極楽特急」2/5(金)まで●「生活の設計」2/6(土)~2/26(金)まで

上映時間 1:20 3:20 5:20 7:20 (2作品共通)
※当日料金一般1,700円/学生1,400円/シニア1,000円/生きるべきか死ぬべきか「天国は待ってくれる」は1,200円均一(全作品特別鑑賞券使用可)
■1/29(土)7:20よりルビッチ101歳のバースディイベント開催
ゲスト=畑中佳樹氏*杉谷伸子さん*武蔵康史氏*プレゼント多数。お問い合わせは劇場まで。

PARCO
SPACE PART 3
渋谷バルコバート3・8F Tel.03-3477-5858